

金日成主席が示した「社会主義教育に関するテーゼ」の 基本思想を考察する

ベネズエラ・チュチェ思想に関する哲学研究会委員長
イスベル・メヒアス

教育は家庭と社会でともにおこなわれる人間の活動です。同時に教育は当該民族の文化および人類学、経済学的潮流に合わせて各国で人々のための知識構造を発展させる国家の政策です。

金日成主席の「社会主義教育に関するテーゼ」の内容を見れば、チュチェ思想の基礎原理が教育分野に具現されていることが分かります。それでわれわれはこの教育テーゼで示された思想をラテンアメリカの将来と関連して簡単に紹介しようと思います。

まず、平和で社会的正義が実現された世界の発展と団結のための社会教育の改造について、哲学者であり幼年時代から人間の意識性を啓発させるための解放的で批判的な教育の創始者であるシモン・ロドリゲス（19世紀）先生について言及しようと思います。この問題にたいしては金日成主席の著作でも見出すことができます。

金日成主席が発展させた思想とわれわれのシモン・ロドリゲスの構想で見られる一致した点は教員に関する問題です。

ロドリゲスは、教員は教えることにふさわしく行動しなければならないし、子供たちが正しい社会的・文化的環境で学ぶようにすべきであると言いました。

— 彼らにたいする教育で実践は極めて重要です。

— 一方、「社会主義教育に関するテーゼ」では、教員は次代を革命の継承者、共産主義者に育成する職業革命家とならなければならないと指摘しています。

この著作では社会主義教育の目的は、人間を自主性と創造性をもつ共産主義的な革命人材に育てることであると明示しました。

シモン・ロドリゲスは自分の著書「アメリカ諸社会」で、教育哲学的領域における授業は学習に完璧に寄与しなければならないし、幼年の時から民主主義的練習を経なければならないと指摘しました。

「社会主義教育に関するテーゼ」には、人間の発展と社会の政治的・経済的および科学的発展のために教育がもつ重要性について解明されています。

「社会主義教育に関するテーゼ」には、社会主義教育学の基本原則から社会

主義教育の内容と方法、社会主義教育制度、教育機関の任務と役割、教育事業にたいする指導と援助に関する問題など教育事業と関わるすべての問題が全面的に示しています。

社会主義教育学の基本原理は、人々を共産主義的革命思想で武装させ、そのうえで深い科学知識と壮健な体力をもたせることでもあります。

社会主義教育の内容は、政治・思想教育、科学技術教育、体育であり、方法は、開発授業、理論教育と実践教育、教育と生産労働の結合、組織生活と社会・政治活動の強化、学校教育と社会教育の結合、就学前教育、学校教育、成人教育の並進であります。

朝鮮の社会主義教育制度は、全般的義務教育制度であり、全般的無料教育制度、働きながら学ぶ教育制度であります。

朝鮮では「社会主義教育に関するテーゼ」が示している通りに教育活動をおこなって成果をおさめています。